

【戯曲募集】

《ナビイチリーディング》では、ブラッシュアップを希望する戯曲を募集します。既に上演したものでも構いません。地域の第一線で活躍する俳優によるリーディング上演をした後、ゲスト劇作家を迎えたディスカッションで、あなたの戯曲の新しい魅力を発見します。エントリーは無料です。詳細は日本劇作家協会東海支部 HP などをご参照ください。応募多数の場合は、きちんと読んだうえで、取り上げる戯曲を選考いたします。ぜひともご応募ください。

*詳細については、日本劇作家協会東海支部 HP からお問い合わせください。

■お問い合わせ

○日本劇作家協会東海支部 HP

○Loft Plan：電話 090-9929-8459

□主催：日本劇作家協会東海支部、ナビロフト、Loft Plan

□制作協力：名古屋演劇教室

日本劇作家協会東海支部×ナビロフト

ナビイチリーディング

【第五回目】

2017 年 12 月 18 日（月）

19:30～21:30

【会場：ナビロフト】

名古屋市天白区井口二丁目 902

TEL/FAX：052-807-2540

□作家ご挨拶 | 畠中直美□

『唐麦』は 19 年前に亡くなった父のことを書きたいという思いから始まりました。

書いたら父の死を認めることが出来ると思っていましたが、思いとはなかなか執念深いもので、認めるどころか書きながらずっと父の面影を探し、今も探しています。と、戯曲を書く動機は私欲にまみれてますが、好き勝手書いているわけではありません。一応3つのことを考えながら書いてます。

- 1、演技は日常の延長にある。
- 2、反応
- 3、台詞は自分のためではなく相手のためにある by 堤真一

1 と 2 はとよた演劇アカデミー7期修了公演の演出をしてくださった劇団ままごとの柴幸男さんに何度も言われた言葉で、3つ目はテレビで堤真一さんが言っていたのをメモ。

役者がお客様にストレスを与えない日常の演技と、自己完結ではなく反応し合う台詞を聞いているうちに話が進み、ハッピーに終わるお話。を書きたくて書いてますが、そんな作品になっているのか、それでいいのか、どうなのか。

ディスカッションでの皆様のご意見、うなずき、ご感想、ダメ出し、なんでもお待ちしております。

■畠中直美プロフィール

知多郡在住。2007 年ダンスカンパニーコンドルズに出会い彼等の舞台を見続けるうちに自分もなにかやりたくなり、2012 年コンドルズ絡みの企画で戯曲募集があり 10 分程度の戯曲を初めて書く。2014 年とよた演劇アカデミー7 期受講。試演会で発表される突っ込みどころがある戯曲に選ばれる。2015 年ある仮チラシのタイトル、コピーから勝手に 40 分ほどの戯曲を書くも上演至らず。2016 年とよた演劇祭「空の舞台」『唐麦』作。2017 年とよた演劇祭「次の舞台」公募作『にぎやかな』作。

【今月の戯曲】

畠中直美

『唐麦（とうむぎ）』

【リーディング・キャスト】

敏子：光本基江

江美：後藤好子

聡美：小関道代

雅一：平野行俊（劇座）

彩乃：川本麻里那（劇団あおきりみかん）

ト書き：鏡味富美子

コーディネーター：鹿目由紀（劇団あおきりみかん）

ファシリテーター：後藤章大（廃墟文藝部）

□ディスカッション・ゲスト□

はせひろいち

（劇団ジャブジャブサーキット）